

Ⅵ 日本語教員養成課程

聖学院大学人文学部日本文化学科において、日本語教員養成課程を設置する。

本課程の目的は、日本語を母語としない日本語学習者に対する日本語教育および日本語支援に従事する教員の養成である。

日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律（令和5年法律第41号）により、認定日本語教育機関で日本語を指導することができる登録日本語教員の国家資格制度を設けられた。

登録日本語教員の資格取得には、「養成機関ルート」①②と「試験ルート」がある。

【養成機関ルート】

①登録日本語教員養成機関における課程 → 日本語教員試験（応用試験） → 登録実践研修機関での研修

②登録実践研修と登録日本語教員養成の併設課程（実践研修を含む） → 日本語教員試験（応用試験）

【試験ルート】

日本語教員試験（基礎試験・応用試験） → 登録実践研修機関での研修

本学の日本語教員養成課程は、養成機関ルート①における登録日本語教員養成機関に登録されている。本課程の修了者には、大学より「養成課程修了証書」を発行する。

登録日本語教員の資格取得のためには、「養成課程修了証書」の交付を受けた後、日本語教育を行うために必要な知識及び技能について判定する日本語教員試験（応用試験）を受験し、合格する必要がある。

本課程を修了し、応用試験に合格した者は、文部科学大臣の登録を受けた登録実践研修機関にて、実践研修を受けることができる。

実践研修を修了した者は、登録日本語教員の登録を申請することができる。

聖学院大学は、登録実践研修機関ではないが、希望者には、協力体制にある登録実践研修機関を紹介する。研修費用に関しては、研修生が登録実践研修機関の指示に従うこと。

登録実践研修機関の紹介を希望する者は、所定の「申請書」を提出すること。申請書を提出し、本学の紹介を受けた者は、本学において事前指導および事後指導（以下「事前・事後指導」という）の提供を受けることができる。

実践研修を修了し、かつ本学において事前・事後指導を受けた者は、「日本語教育実習」（2単位）の単位認定を申請することができる。

事前・事後指導の受講および「日本語教育実習」の単位認定を希望する者は、申請書提出の際にその旨を記載すること。

なお、実践研修に際して、本学から登録実践研修機関の紹介を受けることは必須ではない。ただし、事前・事後指導は、本学と協力関係にある登録実践研修機関において実践研修を受ける者に対してのみ提供されるものとする。

- ・本課程の履修を希望する者は、ガイダンスに参加し、教育支援課へ「日本語教員養成課程履修届」を提出しなければならない。
- ・「日本語教育A」、「日本語教育B」、「日本語教育C」、「日本語教育(基礎技術)」を履修する者は、教育支援課が指定した期日までに、「日本語教員養成課程費（1万円）」を納入しなければならない。
- ・「日本語教育D」を履修する者は、「日本語教育A」、「日本語教育B」、「日本語教育C」、「日本語教育(基礎技術)」の4科目の単位を修得していなければならない。
- ・日本語教員養成課程履修届を提出した後、何らかの事情により、これを辞退する場合は辞退届を提出しなくてはならない。

- ・学業成績不良の者、または本学の定める諸規則に違反するなど懲戒を受けた者は、日本語教員養成課程の履修継続を認められない場合がある。
- ・本課程の履修に要する科目は、卒業要件単位数として数えられる。
- ・3年次に日本文化学科に編入する学生については、編入志望時に、読み替え科目の検討も含めて相談が必要である。

表1 日本語教員養成課程の認定に必要な科目と単位数

必須の教育内容 15下位区分への対応	科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位数		開講期		対象 学年	専門 科目	備考
			必修	選択	春学期	秋学期			
①世界と日本 ②異文化接触 ③日本語教育の歴史と現状 ④言語と社会の関係	JLE-100	日本語教育と 社会	2		○		1	J	課程費を納入していること
⑦言語理解の過程 ⑧言語習得発達 ⑨異文化理解と心理	JLE-100	言語習得と 異文化受容	2			○	1	JA	
⑤言語使用と社会 ⑥異文化コミュニケーションと社会 ⑨異文化理解と心理 ⑪異文化間教育とコミュニケーション教育 ⑮コミュニケーション能力	CST-200	異文化間コミュ ニケーション	4			◎	1	JA	
⑭日本語の構造	JLN-200	日本語学(音声)	2			○	2	J	
⑭日本語の構造	JLN-200	日本語学 (文字語彙)	2		○		2	J	
⑭日本語の構造	JLN-200	日本語学(文法)	2			○	2	J	
⑬言語の構造一般 ⑭日本語の構造	LIN-200	対照言語学	4			◎	2	JA	
①世界と日本 ②異文化接触 ③日本語教育の歴史と現状 ④言語と社会の関係 ⑩言語教育法・実習	JLE-100	日本語教育A	2		○		1	J	
⑤言語使用と社会 ⑮コミュニケーション能力	JLE-100	日本語教育B	2			○	1	J	
⑩言語教育法・実習 ⑫言語教育と情報	JLE-200	日本語教育C	2		○		2	J	
⑩言語教育法・実習	JLE-200	日本語教育 (基礎技術)	2			○	2	J	
⑨異文化理解と心理 ⑩言語教育法・実習 ⑫言語教育と情報	JLE-200	日本語教育D	2		○		3	J	
	合	計	28						

A…欧米文化学科専門科目 J…日本文化学科専門科目
上記学科の専門科目として算入される。